

法政大学大原社会問題研究所

所 報

(2002.10.1 ~ 10.31)

刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』528号(2002年11月)

図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	76	23	99
受 贈	18	110	128
合 計	94	133	227

閲覧サービス

閲覧

開館日数 27日
閲覧人員 32名
貸出図書 25冊

コピーサービス

学外 31件 3305枚
学内 9件 331枚

日 誌

10月

2日 運営委員会

議題 諸報告

2003年度予算要求方針案について
協調会史料の復刻について
所長問題について
副所長制度について
その他

4日 全国政治研究会(於:愛媛大学,五十嵐仁報告)

5日 日本政治学会(～6日,於:愛媛大学,五十嵐仁出席)

加齢過程における福祉研究会

報告者 笹井肇氏(武蔵野市福祉保健部
介護保険課課長補佐)

テーマ 「武蔵野市における介護保険の
経過・現状・課題」

14日 開館

同時代史学研究会(於:立教大学,五十嵐仁出席)

16日 『日本労働年鑑』編集会議

鈴木玲子氏(故鈴木徹三氏夫人)より鈴木茂三郎文庫資料受贈(段ボール6箱)

18日 社会政策学会幹事会(於:中京大学,出席:五十嵐仁)

19日 社会政策学会大会(～20日,於:中京大学,参加:早川征一郎,五十嵐仁,鈴木玲)

22日 事務会議

社会経済生産性本部講演会(於:日本プレスセンタービル,五十嵐仁,鈴木玲出席)

23日 運営委員会

議題 諸報告

次期所長選出について

「研究所中期計画」の取りまとめ
について

その他

全国図書館大会(～25日,於:前橋,小川真弓出席)

24日 戦後社会運動史研究会

重複不要図書を諸機関などに配布(867冊)

26日 労働政策研究会

報告者 諏訪康雄(法政大学社会学部教授)

テーマ 「労働政策形成の現状と問題点」

29日 事務会議

30日 研究員会議

月例研究会

報告者 梅田俊英

テーマ 「第一期協調会とその所蔵史料
について - 1931～40年 - 」

大原社会問題研究所雑誌 No.531(2003年2月号)

2003年2月25日発行

定価 1,000円(本体952円),年間購読料12,000円

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所
所長 早川征一郎

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042(783)2307

投稿募集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

投稿規定

1. 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
2. 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
3. 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
5. 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
6. 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

【原稿送付先】

〒197-0298 東京都町田市相原4324

法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

論文執筆要領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

執筆者校正の際には、原則として原稿を返却しませんので、原稿のコピーを確保しておいて下さい。

原稿をプリントアウトする場合には、ある程度の行間を取って下さい。

1 一般的な原則

横書きとする。

タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。

原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。

注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。

図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。

2 注記の方式

日本語の図書・論文の場合

A. 日本語で書かれた図書については、著者名、書名（書名は『 』で囲む）、出版社名、発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。

B. 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「 他」の方式も可とする。

C. 論文については、執筆者名、論文名（「 」で囲む）、掲載雑誌名（『 』で囲む）、巻号、発行年月日の順に書く。

D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

欧文の図書・論文の場合

A. 欧文の図書については、著者名、書名、発行地（あるいは出版社名）、出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。

B. 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。

C. 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。

D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

以上